

第5期科学技術基本計画検討に向けた論点について

1. 「課題達成」型アプローチ

【課題】

○「課題達成」型における課題の解決や対応を目指した研究開発の評価方法や、こうした研究開発を効果的に実行するメカニズムについてどう考えるか。

【論点】

- ・社会的課題の解決を目指すのか又は技術的課題の解決を目指すのか
- ・いずれの課題であってもどのような内容・粒度感の課題を設定することが適当か
- ・推進する上での指標や目標（KPI）が効果的に設定できるのか
- ・フォローアップをどう行うべきか

【配慮すべき視点】

○非連続的な知の創出や国家がおさえておくべき技術など課題の達成、解決や対応に必ずしも当てはまらないようなものについてどう考えるべきか。

2. 基礎研究力の強化

【課題】

○近年の我が国基礎研究力の世界的ポジションの低下や、多様性喪失の懸念、独創的で新しい学術分野の創造力が弱っている点に危機感を持つべきではないか。その上で、どのように基礎研究力を強化していくのか。

【論点】

- ・新規・融合分野の研究の促進
- ・多様な基礎研究がなされていくための資金配分の仕組み
- ・研究進捗状況の「見える化」等による緊張感向上と適切な評価
- ・人材育成、大学改革、研究開発法人改革、研究資金制度改革との一体的検討

3. 科学技術イノベーション人材の育成・流動化

【課題】

○10～20年後の科学技術イノベーションの中核となる人材は、現在まさに育成されているところであり、学界のみならず、産業界等でも活躍できる多様で優秀な人材をどのように育成していくのか。

○多様で優秀な人材がその創造性を十分発揮できるよう、どのように人材の流動化を進めていくべきか。

【論点】

- ・ 博士人材、リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材、研究支援人材、産業技術人材等の人材の育成方策及び多様なキャリアパスの形成
- ・ 大学改革、研究資金、基礎研究力との一体的検討
- ・ 産業界のニーズを反映した理工系人材教育
- ・ 常識に挑戦する人の正当な評価の在り方
- ・ 研究者や企業の意識改革
- ・ 雇用条件の世代間格差
- ・ 産学間や国際的な人材の流動化
- ・ 研究者や研究支援人材間等の職種間の流動化

4. 研究資金制度の改革

【課題】

○人材の育成を含めて人材、組織を効果的に駆動させ、研究力を向上させていくための重要ツールとして、研究資金制度はどうあるべきか。

【論点】

- ・ 大学や研究開発法人に対する運営費交付金と競争性のある研究資金との望ましい関係
- ・ 競争的資金における間接経費の在り方
- ・ 限られた資金の効果的な執行
- ・ 内外の外部資金の導入促進

5. 科学技術イノベーション・システム改革について

【課題】

○イノベーション・システム全体としてみたときに、大学、研究開発法人、企業などの役割をどのように考えるべきか。どのような点を改善すれば、ポテンシャルを最大限発揮するとともに、各主体間の効果的な協働がなされるのか。

【論点】

- ・ 産学連携の在り方
- ・ 研究開発法人による「橋渡し」の展開方策
- ・ 中小・中堅・ベンチャー企業の支援方策
- ・ インキュベーションや地域のイノベーション・システムの在り方

6. 社会との関係について

【課題】

○科学技術の進展に伴い社会が大きく変化する可能性がある一方で先行きの見通しが不確実になっている中で、国民に対してどのような点に重点を置いて説明し、理解と信頼を

得ていくべきか。また、そのための実効ある取組はどのようなものか。

【論点】

- ・ 国民とのコミュニケーションに向けた研究者や大学、研究開発法人、企業等自身の基本的姿勢
- ・ コミュニケーションのための人材の在り方
- ・ 研究の公正性（Research Integrity）への取組の在り方
- ・ 倫理的な課題

7. 戦略的な国際展開

【課題】

○国際的にオープン化の議論が進んでいる中で、我が国としてどのように対応していくべきか。また、従来は「支援」が主であった新興国等への対応はいかにあるべきか。

【論点】

- ・ オープン・クローズの在り方
- ・ 国際ルール作りへの関与の在り方
- ・ 効果的な外交ツールとしての科学技術の在り方